



2023年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期業績見通し

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

第3四半期及び累計実績

- ☑ **昨今の急激な環境の変化やリスクへの対応策を引き続き実行し、売上高・営業利益ともに2桁成長を実現**
 - 売上高：連結で+17%成長。医療分野の売上高は3Q及び累計において過去最高の売上高
内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成
 - 営業利益：3Q及び累計の営業利益は、額・率ともに過去最高*

通期業績見通し

- ☑ **前回の見通しより、為替を除いて売上高・営業利益ともにほぼ据え置き。経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超を見込む**
 - 売上高・営業利益：前期比16%増の8,710億円を見込む。営業利益は、額・率ともに過去最高を見込む
 - 当期利益**：科学事業の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の3,760億円、EPSは前期比229%増の297円となる見通し

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から **親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS。2023年3月に非継続事業（エビデント）の全株式を譲渡する予定のため、非継続事業の2023年3月期最新見通しは、2023年2月末までの数値になります

01

2023年3月期 第3四半期 連結業績および事業概況

2023年3月期 第3四半期実績 ①連結業績概況

- 1 売上高：連結で+17%成長。医療分野の売上高は3Q及び累計において過去最高の売上高。内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成
- 2 営業利益：3Q及び累計の営業利益は、額・率ともに過去最高*。累計の調整後営業利益率は20.0%

第3四半期累計実績（4-12月）

第3四半期実績（10-12月）

	(単位：億円)			
	FY2022	FY2023	FY2022比	為替除き FY2022比
売上高	5,472	1 6,415	+17%	+3%
売上総利益 (売上総利益率)	3,661 (66.9%)	4,337 (67.6%)	+18%	+1%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	2,591 (47.4%)	3,061 (47.7%)	+18%	+7%
その他の収益および費用など	▲47	149	-	-
営業利益 (営業利益率)	1,022 (18.7%)	2 1,426 (22.2%)	+39%	+6%
調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,075 (19.7%)	1,281 (20.0%)	+19%	▲12%
税引前利益 (税引前利益率)	970 (17.7%)	1,394 (21.7%)	+44%	
継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率)	830 (15.2%)	1,056 (16.5%)	+27%	
非継続事業からの当期利益	49	28	▲21億円	
当期利益	878	1,084	+23%	
親会社の所有者に帰属する当期利益	877	1,082	+23%	
EPS	68円	85円		

	FY2022	FY2023	FY2022比	為替除き FY2022比
売上高	1,871	1 2,245	+20%	+4%
売上総利益 (売上総利益率)	1,247 (66.7%)	1,562 (69.6%)	+25%	+6%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	902 (48.2%)	1,076 (47.9%)	+19%	+7%
その他の収益および費用など	▲30	3	-	-
営業利益 (営業利益率)	316 (16.9%)	2 490 (21.8%)	+55%	+14%
調整後営業利益 (調整後営業利益率)	347 (18.6%)	488 (21.7%)	+40%	+3%
税引前利益 (税引前利益率)	286 (15.3%)	500 (22.3%)	+75%	
継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率)	245 (13.1%)	361 (16.1%)	+47%	
非継続事業からの当期利益	8	53	+566%	
当期利益	253	414	+64%	
親会社の所有者に帰属する当期利益	253	414	+64%	
EPS	-	-		

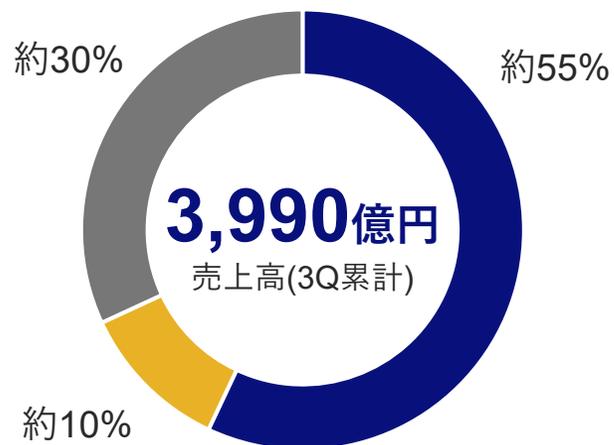
*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から
**「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載

** 継続事業

継続事業

非継続事業

2023年3月期 第3四半期実績 ②内視鏡事業



*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

(単位: 億円)	FY2022		FY2023	
	3Q	3Q累計	3Q	3Q累計
売上高	1,131	3,337	1,405	3,990
営業利益	300	916	418	1,107
その他の損益**	▲9	▲40	▲9	▲23
営業利益率 (為替影響調整後)	26.5%	27.4%	29.7% (25.7%)	27.7% (24.0%)
調整後営業利益率	27.3%	28.6%	30.4%	28.3%

**決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

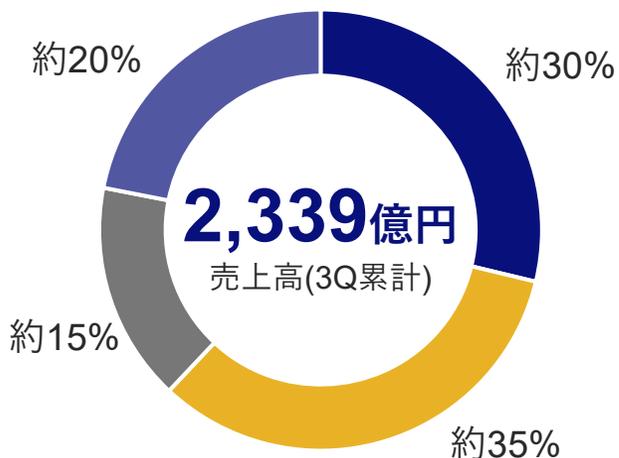
FY2023 vs FY2022 (10-12月) 売上高成長率

円ベース
為替込み

為替影響
調整後

■ 消化器内視鏡	27%	<ul style="list-style-type: none"> 1Qに発生した上海ロックダウンの影響による受注残の解消が進んだ中国、円安効果が大きい北米が増収に貢献。欧州、アジア・オセアニア地域では「EVIS X1」シリーズに加え、一世代前の上部消化管ビデオスコープや大腸ビデオスコープの販売が堅調に推移 	10%
■ 外科内視鏡	7%	<ul style="list-style-type: none"> 腹腔鏡手術用の硬性鏡の販売が堅調に推移した北米、外科内視鏡システム「VISERA ELITE II」の販売が堅調に推移した中国が牽引し、増収。為替影響調整後では、欧州において半導体などの部品供給不足により納期の長期化が発生していることなどがマイナスに影響 	▲7%
■ 医療サービス	27%	<ul style="list-style-type: none"> 保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加もあり、北米をはじめ全ての地域でプラス成長 	10%
合計	24%		8%

2023年3月期 第3四半期実績 ③治療機器事業



*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

FY2023 vs FY2022 (10-12月)
売上高成長率

円ベース
為替込み

	円ベース 為替込み		為替影響 調整後
■ 消化器科 (処置具)	12%	<ul style="list-style-type: none"> 症例数が増加している北米で好調に推移し、全ての製品群でプラス成長。サンプリング（生検鉗子など）、ERCP、ESD・EMR用の製品群の売上が拡大。COVID感染者数が急増した日本・中国は症例数の低下に伴い、減収 	2%
■ 泌尿器科**	22%	<ul style="list-style-type: none"> 症例数の回復が進み、特に北米で好調に推移。BPH用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の拡販が奏功 	3%
■ 呼吸器科	14%	<ul style="list-style-type: none"> COVID感染拡大に伴う呼吸器関連の予算などがあった中国が増収に貢献。北米も円安効果により増収。EBUS-TBNA(超音波気管支鏡ガイド下針生検)で主に使われる処置具が堅調に推移。為替影響調整後では、前年同期にロシアなどで大型入札案件があった欧州の反動減などがマイナスに影響 	▲2%
■ その他の治療領域	8%	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーデバイス「Powerseal」が堅調に推移。北米は円安効果により増収に貢献。為替影響調整後では、欧州において、部材不足の影響を顕著に受けていること、前年同期にロシアで大型入札案件があったことによる反動減などがマイナスに影響 	▲5%
合計	15%		0%

FY2022

FY2023

(単位: 億円)	3Q	3Q累計	3Q	3Q累計
売上高	706	2,037	810	2,339
営業利益	136	438	183	481
その他の損益**	▲8	13	13	12
営業利益率 (為替影響調整後)	19.2%	21.5%	22.6% (21.5%)	20.6% (19.2%)
調整後営業利益率	20.4%	20.9%	21.0%	20.1%

決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値／FY2023より、治療機器事業のその他の治療領域に分類していた婦人科製品について、治療機器事業の泌尿器科に含めています。FY2022の実績も同様に組替え済

財政状態計算書

- ☑ 非継続事業の資産、負債を、売却目的で保有する資産、それに直接関連する負債として記載
- ☑ 為替の影響（約630億円）が含まれていることから、バランスシートは減少

(単位：億円)	2022年3月末	2022年12月末	増減額		2022年3月末	2022年12月末	増減額
流動資産	6,946	7,225	+279	流動負債	3,763	3,553	▲210
棚卸資産	1,674	1,709	+35	社債および借入金	523	532	+9
売却目的で保有する 資産	47	1,323	+1,276	売却目的で保有する 資産に直接関連する 負債	0	328	+328
非流動資産	6,634	6,701	+67	非流動負債	4,704	4,318	▲386
有形固定資産	2,471	2,334	▲138	社債および借入金	3,338	2,995	▲343
無形資産・その他	2,518	2,537	+19	資本	5,114	6,056	+942
のれん	1,645	1,830	+185	自己資本比率	37.6%	43.4%	+5.8pt
資産 合計	13,580	13,926	+346	負債および資本合計	13,580	13,926	+346

連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF： 営業CFは549億円のプラスとなり、特殊要因を考慮した調整後FCFは424億円のプラス
- ☑ 財務CF： 自己株式の取得（400億円*）や配当金支払い、社債の償還（400億円）による支出などにより、1,124億円のマイナス

第3四半期累計実績（4-12月）

（単位：億円）		FY2022	FY2023	増減	
継続事業	非継続事業	税引前利益	970	1,394	+424
	営業キャッシュフロー	1,153	549	▲603	
	投資キャッシュフロー	▲571	▲379	+193	
	フリーキャッシュフロー	581	171	▲410	
	調整後フリーキャッシュフロー	909	424	▲485	
	財務キャッシュフロー	▲93	▲1,124	▲1,031	
	現金および現金同等物期末残高	2,751	2,113	▲638	

2022年3月期第3四半期（4-12月）の主な特殊要因

営業CF：社外転進支援制度の引当取崩など	▲112億円
投資CF：事業・子会社の取得など	▲216億円

2023年3月期第3四半期（4-12月）の主な特殊要因

営業CF：科学事業の分社化に伴う税金支出・投資など	▲348億円
投資CF：固定資産（土地）の売却による収入など	+191億円
投資CF：投資有価証券、事業・子会社の取得など	▲75億円
投資CF：科学事業の分社化に伴う一時的な資金負担など	▲21億円

*総額で500億円を予定
非継続事業のキャッシュフローはAppendix（P.23）をご覧ください



02

2023年3月期 通期業績見通し

通期業績見通し ①連結業績

☑ 前回見通しから為替を除いてほぼ据え置き。経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超を見込む

- 1 売上高・営業利益： 前期比+16%増の8,710億円を見込む。営業利益は、額・率ともに過去最高を見込む
- 2 当期利益*： 科学事業の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の3,760億円、EPSは前期比229%増の297円となる見通し

		(単位：億円)		増減	前回 見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	2022年3月期 実績****	前年比	為替影響調整後 前年比
		2023年3月期 11月11日公表見通し	2023年3月期 最新見通し						
** 継続事業	売上高	8,920	1 8,710	▲210	▲2%	0%	7,501	+16%	+4%
	売上総利益 (売上総利益率)	6,130 (68.7%)	5,940 (68.2%)	▲190	▲3%	0%	5,067 (67.5%)	+17%	+2%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,135 (46.4%)	4,110 (47.2%)	▲25	▲1%	0%	3,575 (47.7%)	+15%	+4%
	その他の収益および費用など	125	150	-	-	-	▲30	-	-
	営業利益 (営業利益率)	2,120 (23.8%)	1 1,980 (22.7%)	▲140	▲7%	+1%	1,462 (19.5%)	+35%	+10%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	2,005 (22.5%)	1,840 (21.1%)	▲165	▲8%	0%	1,507 (20.1%)	+22%	▲3%
	税引前利益 (税引前利益率)	2,060 (23.1%)	1,970 (22.6%)				1,417 (18.9%)		
	継続事業からの当期利益	1,570 (17.6%)	1,490 (17.1%)				1,107 (14.7%)		
*** 非継続事業	非継続事業からの当期利益	2,300	2,270				53		
	当期利益	3,870	3,760				1,160		
	親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	3,870 (39.2%)	2 3,760 (43.2%)				1,157 (13.3%)		
	EPS	305円	297円				90円		

2023年3月期配当
年間配当16円を予定

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
 **「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
 ***2023年3月に非継続事業（エビデント）の全株式を譲渡する予定のため、非継続事業の2023年3月期最新見通しは、2023年2月末までの数値となります
 ****監査前の数値となります

通期業績見通し ②セグメント別業績

- 1** 医療分野： 過去最高の売上高となる見込み
米国における「EVIS X1」の導入は2024年3月期中頃に延期予定。本件による業績への影響は軽微と予想
- 2** 非継続事業： 譲渡益を計上し、大幅増益を見込む

(単位：億円)		2023年3月期 11月11日公表見通し	2023年3月期 最新見通し*	増減	前回 見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	2022年3月期 実績**	前年比	為替影響調整後 前年比
内視鏡	売上高	5,520	1 5,420	▲100	▲2%	0%	4,615	+17%	+5%
	営業利益	1,735	1,635	▲100	▲6%	0%	1,332	+23%	▲1%
治療機器	売上高	3,290	1 3,180	▲110	▲3%	▲1%	2,756	+15%	+3%
	営業利益	750	695	▲55	▲7%	+1%	608	+14%	▲2%
その他	売上高	110	110	-	-	-	130	▲15%	▲18%
	営業損益	▲15	▲15	-	-	-	▲20	+5億円	+5億円
全社・消去	営業損益	▲350	▲335	+15	+15億円	+15億円	▲458	+123億円	+164億円
連結合計	売上高	8,920	8,710	▲210	▲2%	0%	7,501	+16%	+4%
	営業利益	2,120	1,980	▲140	▲7%	+1%	1,462	+35%	+10%
(参考) 非継続 事業	売上高	950	1,190	+240	+25%	+28%	1,187	0%	▲13%
	営業利益	3,540	2 3,500	▲40	▲1%	▲1%	77	+4,445%	+4,352%

*2023年3月に非継続事業（エビデント）の全株式を譲渡する予定のため、非継続事業の2023年3月期最新見通しは、2023年2月末までの数値になります **監査前の数値となります

Warning LetterとQARA（品質保証・法規制対応）強化の取り組み

FDAからのWarning Letter

- 2022年11月3日に会津オリンパス、2022年12月15日にオリンパスメディカルシステムズ株式会社は、米国食品医薬局（FDA）より Warning Letterを受領し、文書管理と設計検証および医療機器報告（MDR）を適時に提出することなどに関して指摘を受けた
- FDAからの要請にタイムリーに対応できるよう、文書や対面でのやり取りを通じて、FDAと緊密にコミュニケーションを図っている

グローバル化をはじめとするQARA（品質保証・法規制対応）強化の取り組み

- ☑ グローバルな苦情処理の改善プログラム：コンプライアンスを確保するための新しいプロセスとプラットフォームを実行
- ☑ CQOの下で独立したグローバルな品質保証・製品法規制対応の組織を立ち上げ、CEOに直接レポート（メドテックカンパニーにおけるQARAの知見、経験を持った多くの人材の採用を含む）
- ☑ すべてのオリンパスの拠点と事業にグローバルな品質システムとガバナンスモデルを導入
- ☑ 設計および製造プロセスと記録の改善

OLYMPUS

A thick, yellow, brushstroke-style underline that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".

参考資料

開示の変更点

科学事業（イベント）の譲渡に伴い、第2四半期より科学事業を非継続事業として開示（国際会計基準）

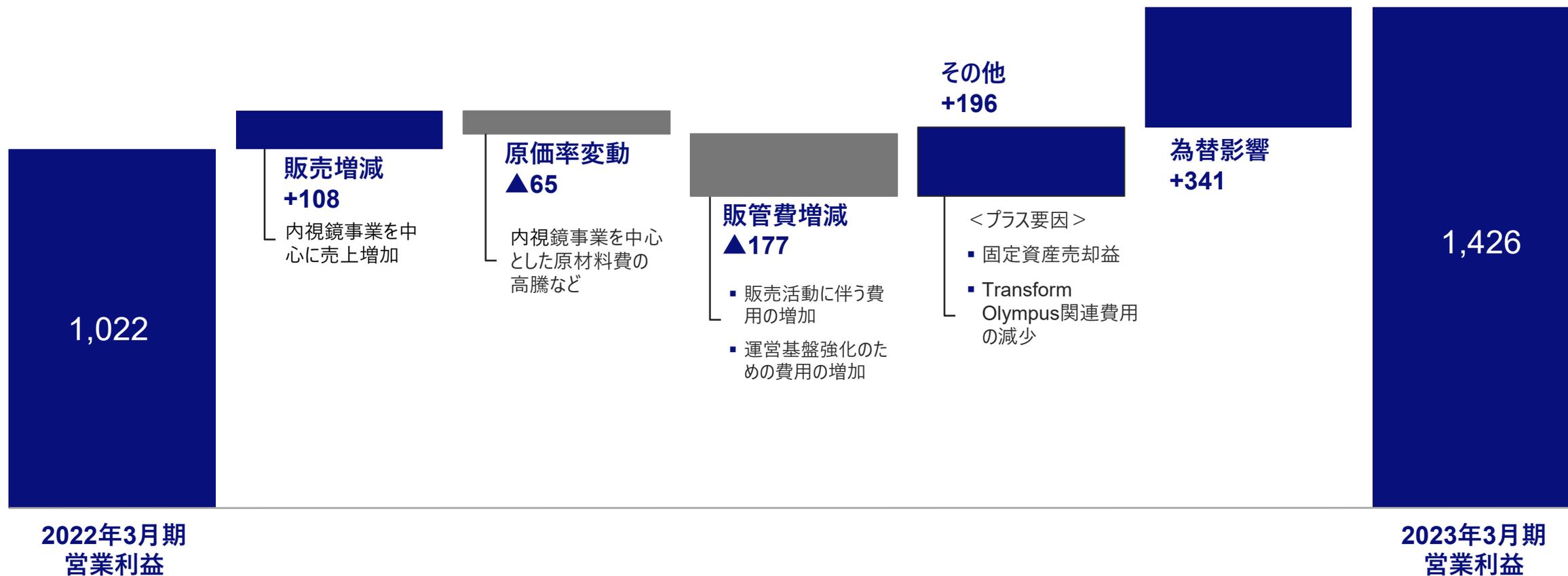


- 連結業績では、非継続事業からの当期利益（損失）を開示
- 参考資料として、非継続事業（科学事業）の業績を開示

*2023年3月期第2四半期連結会計期間において、当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社である株式会社BCJ-66との間で科学事業の譲渡に関する株式譲渡契約を締結しました。これに伴い、当第2四半期連結会計期間より、科学事業に関わる損益を非継続事業に分類するとともに、前第2四半期連結累計期間についても同様の形で再表示しています。なお、売上高、営業利益、税引前利益、継続事業からの四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。また、2023年3月に全株式の譲渡が完了する前提での記載となっています。

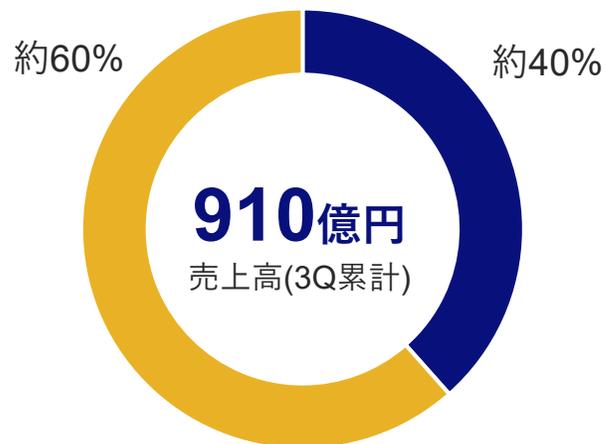
2023年3月期 第3四半期実績 連結営業利益増減要因

第3四半期累計実績（4-12月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

2023年3月期 第3四半期実績 非継続事業 (科学事業)



(単位: 億円)	FY2022		FY2023	
	3Q	3Q累計	3Q	3Q累計
売上高	296	826	383	910
営業利益	11	67	64	15
その他の損益*	▲38	▲46	▲33	▲83
営業利益率 (為替影響調整後)	3.7%	8.1%	16.6% (10.8%)	1.6%
調整後営業利益率	16.5%	13.6%	25.3%	10.7%

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2023 vs FY2022 (10-12月)
売上高成長率

円ベース
為替込み

為替影響
調整後

■ ライフサイエンス	26%	<ul style="list-style-type: none"> 研究所、大学での予算執行が堅調に推移。特に、1Qに発生した上海ロックダウンの影響を受けていた中国では、受注残の解消が進み、増収に貢献 	11%
■ 産業	32%	<ul style="list-style-type: none"> 航空・ガスパイプライン市場などの顧客市場における設備投資状況が好調。1Qに発生した上海ロックダウンの解除により出荷が増加している中国や、円安効果の大きい北米が増収に貢献 	14%
合計	29%		12%

非継続事業のキャッシュフロー 第3四半期実績 (4-12月)

	FY2022	FY2023	増減
営業キャッシュフロー	68	▲137	▲204
投資キャッシュフロー	▲46	▲82	▲36
財務キャッシュフロー	▲7	▲14	▲7

2023年3月期 第3四半期実績 セグメント別概況

第3四半期累計実績（4-12月）

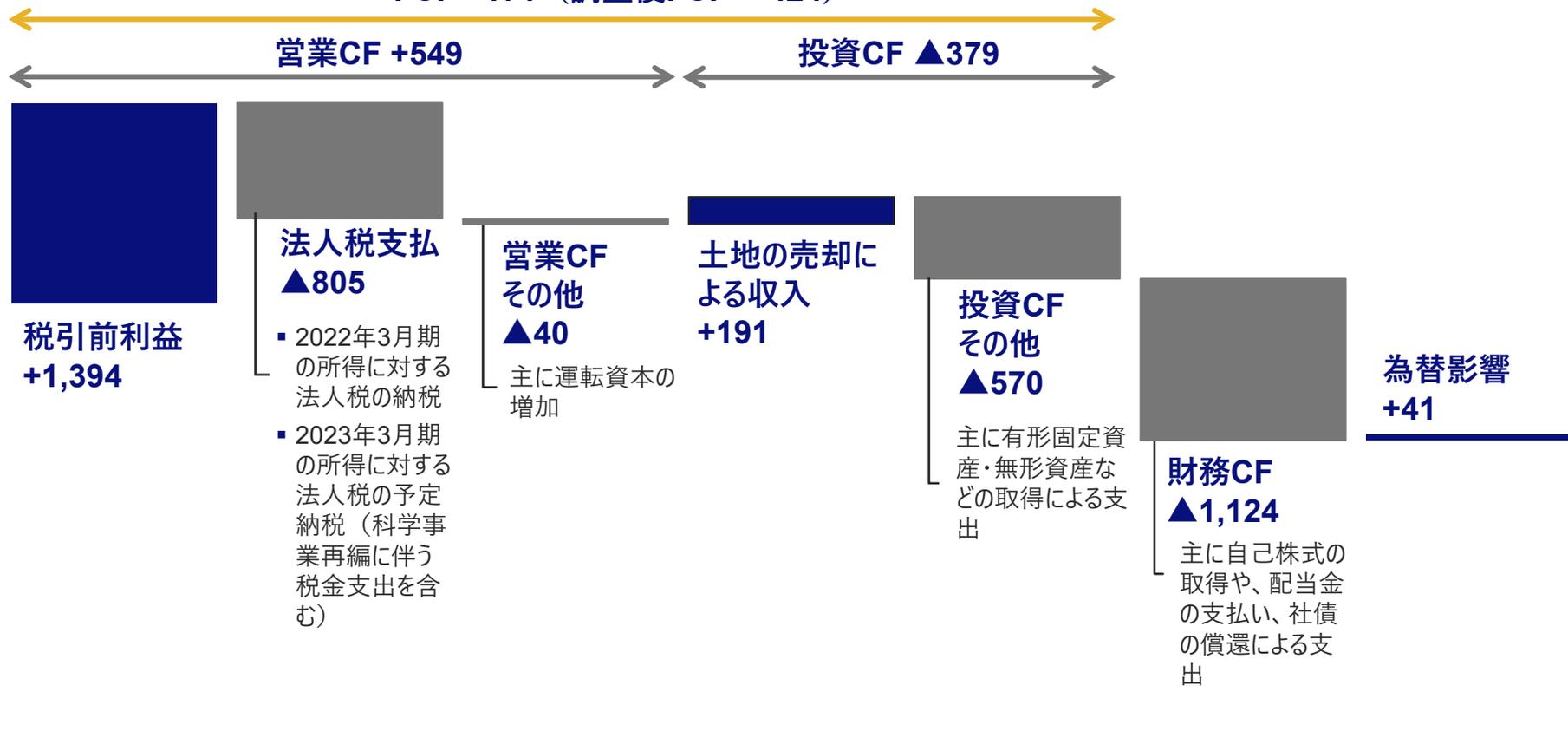
(単位：億円)		2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	3,337	3,990	+20%	+5%
	営業利益	916	1,107	+21%	▲8%
治療機器	売上高	2,037	2,339	+15%	+1%
	営業利益	438	481	+10%	▲10%
その他	売上高	98	86	▲12%	▲15%
	営業損益	▲15	▲9	+6億円	+7億円
全社・消去	営業損益	▲317	▲153	+164億円	+178億円
連結合計	売上高	5,472	6,415	+17%	+3%
	営業利益	1,022	1,426	+39%	+6%
(参考) 非継続事業	売上高	826	910	+10%	▲4%
	営業損益	67	15	▲78%	▲144%

第3四半期実績（10-12月）

		2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	為替影響調整後
		1,131	1,405	+24%	+8%
		300	418	+40%	+5%
		706	810	+15%	0%
		136	183	+35%	+12%
		34	30	▲12%	▲16%
		▲3	▲1	+2億円	+2億円
		▲116	▲110	+6億円	+11億円
		1,871	2,245	+20%	+4%
		316	490	+55%	+14%
		296	383	+29%	+12%
		11	64	+487%	+232%

連結キャッシュフロー 増減要因

FCF +171 (調整後FCF* +424)



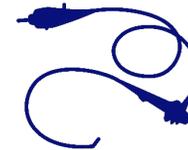
2022年3月末
現金および現金同
等物期末残高

*2023年3月期第3四半期（4-12月）の主な特殊要因

営業CF：科学事業の分社化に伴う税金支出・投資など	▲348億円
投資CF：固定資産（土地）の売却による収入など	+191億円
投資CF：投資有価証券、事業・子会社の取得など	▲75億円
投資CF：科学事業の分社化に伴う一時的な資金負担など	▲21億円

2022年12月末
現金および現金同
等物期末残高

プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2023年2月10日時点)



2023年3月期の内視鏡事業における重点施策

- 欧州、日本、アジア一部地域において、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を拡販
- 米国は2024年3月期中頃に「EVIS X1」を導入することを目指し、中国は導入準備を進める
- 欧州、日本で次世代超音波内視鏡システムの導入を準備
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化し、中国では売上を拡大
- 外科内視鏡分野においては、次世代外科内視鏡システムの導入を準備し、収益性を改善

現在の主力製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)
- EVIS LUCERA ELITE (中国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (米国、欧州、日本、中国)
- VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国)
- EU-ME3 (欧州、日本、アジア・オセアニア)

外科内視鏡

- VISERA ELITE III (欧州、日本、アジア・オセアニア)

中長期のパイプライン

消化器内視鏡

- EVIS X1 (中国)
- シングルユース十二指腸内視鏡
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (日本、米国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE III (米国)

17%

2023年3月期 売上高成長率¹

¹ 円ベースの成長率

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2023年2月10日時点)



2023年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイス など主要カテゴリにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 気管支鏡における次世代プラットフォーム「EVIS X1」を米国で発売
- Veran Medical technologies社の統合による肺がん分野におけるソリューション拡大を通じて成長を加速

現在の主力製品

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州)

呼吸器科

- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科

- 3製品 (米国)
- 5製品 (欧州)
- 5製品 (日本)

泌尿器科

- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTind (米国、欧州)

呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 超音波気管支鏡 (米国)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)

中長期のパイプライン

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡

呼吸器科

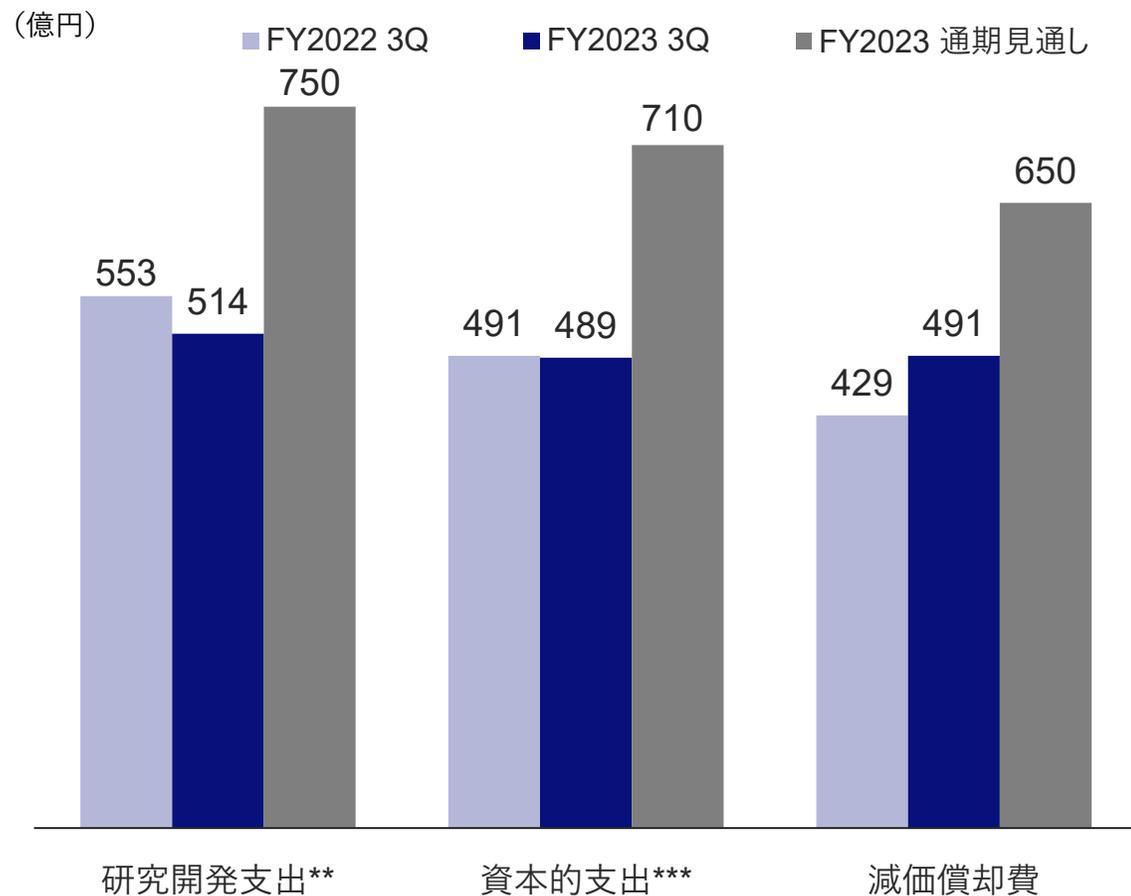
- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- シングルユース気管支鏡

*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております
1 円ベースの成長率

15%

2023年3月期 売上高成長率¹

第3四半期累計実績（4-12月）および通期見通し*



(単位：億円)	FY2022	FY2023
研究開発支出** (a)	553	514
開発費資産化 (b)	96	88
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	457	426

(単位：億円)	FY2022	FY2023
償却費	51	62
	2022年9月末	2022年12月末
開発資産残高	538	534

*2023年3月期第2四半期連結会計期間より、科学事業を非継続事業に分類しています。これに伴い、当スライドの研究開発支出、資本的支出、減価償却費は非継続事業を除いた継続事業の金額を表示しています。前第2四半期連結累計期間についても同様の形で再表示しています

研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています／ *資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。(FY2022 3Q：105億円、FY2023 3Q：67億円、FY2023 見通し：80億円)

為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1ヵ月間の平均値を原則としている

為替

(単位：円)	FY2022 1Q	FY2022 2Q	FY2022 3Q	FY2023 1Q	FY2023 2Q	FY2023 3Q	前回見通し	FY2023 最新見通し
円／USドル	109.49	110.11	113.71	129.57	138.37	141.59	140	135
円／Euro	131.96	129.84	130.07	138.12	139.34	144.30	139	140
円／CNY	16.96	17.02	17.78	19.58	20.19	19.87	20	20

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	25	11
1ユーロ（1円あたり）	16	7
人民元（1円あたり）	60	39

*上表の数値は継続事業の金額を表示しています